



社会復帰研究部

Goal

効果的な実践の実行可能性評価

精神障害のある人の
リハビリ促進に貢献

援助付雇用と認知機能 リハビリテーション

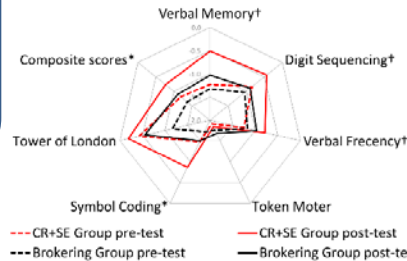
援助付雇用と認知機能リハビリテーションを組み合わせた就労支援の効果を就労率、就労継続日数、総賃金を指標として検討。介入群では、ブローキングタイプの従来の就労支援と比較して有意に就労率が高く、就労継続日数が長いことを示し、医療経済的にも効果的であることが認められた。

The number of employment in each group
($\chi^2=1.5797, p<0.01$)



多職種アウトリーチサービス

日本初の重症精神障害者に対する包括型地域生活支援プログラム (ACT)の実証的研究を行い、地域精神保健施策の充実に寄与できる新たなシステムのあり方を提言。



機能強化型デイケア

従来のプログラム中心型のデイケアからアウトリーチ支援を含む個別支援を重視した機能強化型デイケアの検証



精神科診療所の役割に関する調査

精神科診療所の初診患者を対象とした前向き調査により、精神科診療所を受診する人の特徴と提供できるサービスを明らかにし、地域における精神科診療所の役割を提案

アウトリーチチームによるCBT、家族支援

ACTネットワークの協力により、多職種アウトリーチチームによるCBTの実行可能性と効果の検証を実施中。複数の訪問看護ステーションとの多施設共同研究により、訪問型の個別家族支援に関する検証を開始。

外来・地域における医療型ケアマネジメント

中等度～重度の精神障害者を地域で支えるためには、医療と福祉の連携は不可欠であり、医療の側からのケアマネジメントのあり方について実証研究を行っている。

Mission

生物・心理・社会的観点から精神疾患や精神障害を多面的に捉え、施策としても導入可能な精神保健医療福祉のサービスプログラムのモデルを呈示し、その効果に関する実証研究を推進すること

Support Hope And Recovery (SHARE) プロジェクト



SHARE プロジェクトは、医師一患者間の共同意思決定 (shared decision making, SDM) を促進することを目的としている。ディシジョン・エイド(コンピュータソフト)およびピアスタッフの支援により、SDMが促進される可能性が示唆されている。

新たな精神保健サービス、システムの開発・提言